

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン	科目：	デザイン実習①	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：

1 年次に行った産業技術基礎にてもものづくりの基礎を学んだことを踏まえ、2 年次では、各デザインの領域の基礎をデザイン実習Ⅰとデザイン実習Ⅱで学ぶ。本授業においては、デッサン表現・ビジュアルデザイン・コンピューターグラフィックスの3つの項目に分けローテーションで行う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・写真技法を含めた、物体の捉え方と表現方法の習得。 ・視覚伝達の基礎と応用技術の習得と表現法。 ・コンピューターを使った視覚伝達技術の習得。	・様々な図法、描画法を理解し、アートワーク、デザインワークに応用できる。	表現のために必要であることを理解し、意欲をもって基礎的な知識と技能の習得に取り組み、作品制作に活かしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	○インテリア基礎 ・家具や建築内装の基礎技法。 ○ビジュアルデザイン ・オリジナルフォントをデザインし、テーマに沿った画面を構成する。 ○コンピューターグラフィックス ・写真撮影の基礎学習と、PC編集作業基礎。	(知)	インテリアに関する基礎知識、基本構造の理解。 タイポグラフィーの基礎知識、文字のエLEMENTや種類の理解。 写真技術の基礎と、編集作業の基礎。		○		○	○	18
			(思)	インテリア基礎技術の応用的展開と制作。 スペーシングを理解し、拡大視写に取り組む。 撮影結果の技術的理解と、応用。		○		○	○	
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	○インテリア基礎 ・家具や建築内装の基礎技法。 ○ビジュアルデザイン ・オリジナルフォントをデザインし、テーマに沿った画面を構成する。 ○コンピューターグラフィックス ・写真撮影の基礎学習と、PC編集作業基礎。	(知)	インテリアに関する基礎知識、基本構造の応用展開。 タイポグラフィーの基礎知識、文字のエLEMENTや種類の理解。 写真技術の基礎と、編集作業の基礎		○		○	○	18
			(思)	インテリア基礎技術の応用的展開と制作。 スペーシングを理解し、拡大視写に取り組む。 撮影結果の技術的理解と、応用。完成度の高い編集。		○		○	○	
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	○インテリア基礎 ・家具や建築内装の基礎技法。 ○ビジュアルデザイン ・オリジナルフォントをデザインし、テーマに沿った画面を構成する。 ○コンピューターグラフィクス ・写真撮影の基礎学習と、PC編集作業基礎。	(知)	インテリアに関する基礎知識、基本構造の応用展開。 タイポグラフィーの基礎知識、文字の要素や種類の理解。 写真技術の基礎と、編集作業の基礎		○		○	○	24
		(思)	インテリア基礎技術の応用の展開と制作。 スペーシングを理解し、拡大視写に取り組む。 撮影結果の技術的理解と、応用。完成度の高い編集。		○		○	○		
		(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○		
2 学 期	期 末 考 査	○インテリア基礎 ・家具や建築内装の基礎技法。 ○ビジュアルデザイン ・オリジナルフォントをデザインし、テーマに沿った画面を構成する。 ○コンピューターグラフィクス ・写真撮影の基礎学習と、PC編集作業基礎。	(知)	インテリアに関する基礎知識、基本構造の応用展開。 タイポグラフィーの基礎知識、文字の要素や種類の理解。 写真技術の基礎と、編集作業の基礎		○		○	○	24
		(思)	インテリア基礎技術の応用の展開と制作。 スペーシングを理解し、拡大視写に取り組む。 撮影結果の技術的理解と、応用。完成度の高い編集。		○		○	○		
		(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○		
3 学 期	学 年 末 考 査	○インテリア基礎 ・家具や建築内装の基礎技法。 ○ビジュアルデザイン ・オリジナルフォントをデザインし、テーマに沿った画面を構成する。 ○コンピューターグラフィクス ・写真撮影の基礎学習と、PC編集作業基礎。	(知)	インテリアに関する基礎知識、基本構造の応用展開。 タイポグラフィーの基礎知識、文字の要素や種類の理解。 写真技術の基礎と、編集作業の基礎		○		○	○	33
		(思)	インテリア基礎技術の応用の展開と制作。 スペーシングを理解し、拡大視写に取り組む。 撮影結果の技術的理解と、応用。完成度の高い編集。		○		○	○		
		(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○		
合計										117

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン	科目：	デザイン実習②	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：

1 年次に行った産業技術基礎にてもものづくりの基礎を学んだことを踏まえ、2 年次では、各デザインの領域の基礎をデザイン実習Ⅰとデザイン実習Ⅱで学ぶ。本授業においては、プロダクトデザイン・テキスタイルデザイン・メディアフォトグラフの3つの項目に分けローテーションで行う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・木材、金属などの立体造形材料の基礎。 ・染色、印刷、織布などのテキスタイル基礎。 ・物体の捉え方と図法に則った表現方法の習得。	・素材に合わせた立体物造形の発想。 ・染色、印刷、織布の素材に合わせたアイデア展開。 ・構図を捉え、描画技術を利用した作品制作。	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	プロダクトデザイン ・木工加工 テキスタイルデザイン ・シルクスクリーンによるプリント メディアフォトグラフ ○デッサン表現 ・静物デッサン 素材差の表現	(知)	・木材の特性、加工方法と安全について。 ・孔版印刷の基礎。染色のための材料特性。 ・前年度の基礎を踏まえたデッサン展開。		○		○	○	18
			(思)	・木工製品に求められる機能と木材特性の理解。 ・孔版印刷の特性を考えたアイデア展開。 ・前年度の基礎を踏まえたデッサン展開。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	プロダクトデザイン ・木工加工（ハンガー制作） テキスタイルデザイン ・シルクスクリーンによるプリント ○デッサン表現 ・静物デッサン 素材差の表現	(知)	・機能造形の理解と木材特性を生かした加工。 ・シルクスクリーンの特性を生かした印刷と作品完成。 ・構図を理解した描写。		○		○	○	18
			(思)	・機能と美しさのバランスを考えた作品作り。 ・シルクスクリーンによる染色作品の完成。 ・応用的作品の完成と作品の振り返り。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	プロダクトデザイン ・ 注型作品の制作 テキスタイルデザイン ・ 平織組織（通し織）にて 作品制作 メディアフォトグラフ ・ 生物写真撮影	(知)	・ 注型法の基礎と考え方。 ・ 織布のための基礎知識。完全組織の作り方と理解。 ・ 構図の考え方と、より複雑な光源を考える。		○		○	○	24
			(思)	・ 立体造形と注型のための型のアイデア。 ・ 完全組織による織りのアイデアづくり。 ・ モチーフ特性の理解と応用的表現。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	プロダクトデザイン ・ 注型作品原型の制作 テキスタイルデザイン ・ 平織組織（通し織）にて 作品制作 メディアフォトグラフ ・ 生物写真撮影	(知)	・ 立体造形の基礎を踏まえた原型作り。 ・ 平織の特性を生かした作品制作。 ・ 応用的構図の作り方。		○		○	○	24
			(思)	・ 注型造形のための作品原型完成。 ・ 縦横の組織理解と作品制作。 ・ 描画と余白のバランス理解。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	プロダクトデザイン ・ 注型作品の制作 テキスタイルデザイン ・ 平織組織（通し織）にて 作品制作、仕上げ メディアフォトグラフ ・ ポスター制作（P C 編集）	(知)	・ 注型方の基礎理解。様々な注型造形の違い。 ・ 平織の基礎から応用技術への発展。 ・ デッサンの応用的展開と制作時間配分を考える。		○		○	○	33
			(思)	・ 注型による作品完成。研磨と修正。 ・ 平織による作品の完成。 ・ 完成までのプロセスを考えた展開。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
合計										117

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・デザイン	科目：	デザイン実践	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	デザイン実践（実教出版）	副教材	色彩検定公式テキスト（色彩検定協会）				

年間指導目標：
幅広いデザイン力の修得のために、色彩検定3級合格を目指すことで、色彩に関する基礎知識から実践的な配色効果まで、学び、深め、応用する力を身につけ、作品制作の向上を目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	色彩の基礎をよく理解し、考查の得点につなげる。色彩効果を考えた作品制作をする。	配色効果を理解し、考查の得点につなげる。配色効果を活かし、丁寧な作品を制作する。	遅刻や欠席が少なく、集中して授業を受け、提出物を期限内に提出する。

評価方法										配当 時数
a:定期考查	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度						
学期	考查	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学 期	中 間 考 査	1、光と色 ・ 眼のしくみ ・ 照明と色の見え方 ・ 混色	(知)	色彩の基礎を理解する。	○	○		○	○	12
			(思)	問題を解く力を身につける。	○	○		○	○	
			(態)	提出物を期限内に提出する。	○	○		○	○	
1 学 期	期 末 考 査	2、色の表示 ・ 色の分類と三属性 ・ PCCS 3、色彩心理 ・ 色の心理効果 ・ 色の視覚効果	(知)	色彩の基礎を理解する。	○	○		○	○	12
			(思)	問題を解く力を身につける。	○	○		○	○	
			(態)	提出物を期限内に提出する。	○	○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	4、色彩調和 ・配色の基本的な考え方 ・色相を手がかりにした配色	(知)	色彩の基礎を理解する。	○	○		○	○	16
		・トーンを手がかりにした配色 ・色相とトーンを組み合わせた配色 ・配色の基本的な技法	(思)	問題を解く力を身につける。	○	○		○	○	
			(態)	提出物を期限内に提出する。	○	○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	5、ファッションとインテリア ・ファッションと色彩 ・インテリアと色彩	(知)	色彩の基礎を理解する。		○		○	○	16
		6、色彩演習（実技）	(思)	問題を解く力を身につける。		○		○	○	
			(態)	提出物を期限内に提出する。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	7、色彩演習（実技）	(知)	色彩の基礎を理解する。		○		○	○	22
			(思)	問題を解く力を身につける。		○		○	○	
			(態)	提出物を期限内に提出する。		○		○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン	科目：	情報スキル	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書：	なし	副教材	30時間でマスターOffice2016（実教出版） Illustrator トレーニングブック（ソーテック社）				

年間指導目標：
デザインワークにおける情報処理技術の基礎から応用までを学習する。
使用法とリテラシーの両面を学びながら、デザインワークで使用する様々なソフトウェア技術の修得と応用までを学習する。
学んだアプリケーションを使って自身の作品制作が出来るようになる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・デザインワークにおけるデスクワークの基礎（ビジネス文書作成、表作成、プレゼンテーション資料作成）を習得している。 ・Adobe グラフィックソフトの基礎技術から応用までを習得している。 ・学んだアプリケーションを応用し、作品制作が出来る。	・学んだソフトウェアの基礎から、関連性を見出して応用できる。 ・創作や発表のための構成を考え、具体的に構築する事が出来る。 ・自己表現だけでなく、依頼や要望等の条件に則って仕上げられる。	・OSやアプリケーションの基礎を意欲的に理解している。 ・条件に対して発想を生かし、ソフトウェアの応用活用からデザインワークに活かす事が出来る。 ・課題条件を積極的に活かし、目的達成に向けて努力できる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・WindowsOSの基礎。 ・Word2016の基礎入力、操作。 ・ビジネス文書作成の基礎。 ・MacintoshOSの基礎操作。設定方法。 ・Adobe グラフィックソフトの基本操作。 ・基本的な作図法。	(知)	・各OSの基本操作、特性と利用方法。 ・Office2016とAdobe グラフィックソフトの基本操作と利用方法。 ・ビジネス文書作成の基礎。書類様式について。		○		○	○	12
			(思)	・オペレーションシステムの違いと利用方法。 ・ワープロソフトの基礎入力法と理解。 ・ビットマップ画像とベクタ画像の違いと利用法。		○		○	○	
			(態)	・学習内容の初歩的応用。 ・学習内容の理解と作品への取り組み。 ・作品の完成度。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	・Word2016の応用。設定変更や再設定。 ・ビジネス文書作成の応用。 ・Word2016における画像仕様と処理。 ・MacintoshOSの応用操作。設定方法。 ・Adobe Illustrator 応用。 ・ベジェ曲線による応用作図法。	(知)	・様々な拡張子による保存方法の理解。 ・ビジネス文書様式の理解と文書作成力。 ・ベクタ画像作成の基礎理解。		○		○	○	12
			(思)	・ビジネス文書入力での様々な対応力。 ・図像作成の基礎を活かした形態の造形。 ・効果的なベジェ曲線作成の判断。		○		○	○	
			(態)	・ビジネス文書様式を理解して文書作成が出来る。 ・ドローソフトの特性を生かして、造形できる。 ・取組が作品の完成度に比例している。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	・ Excel2016の基礎操作。表計算ソフトの基礎について。 ・ オートフィルとワークシート編集。 ・ 計算式、関数を使用した表作成。 ・ Adobe Illustratorを使った画像編集。 ・ 文字入力と文字組の基礎。	(知)	・ 表計算ソフトの基本操作と利用法。 ・ 計算式入力の基礎。 ・ グラフィックソフトでの文字入力の応用と、文字組。		○		○	○	16
			(思)	・ 表計算ソフトの利用方法を理解している。 ・ 計算式入力ができる。 ・ グラフィックソフトの文字調整の基礎が解る。		○		○	○	
			(態)	・ 表計算ソフトの基本的操作で利用できる。 ・ 表作成の積極的理解と活用。 ・ 作品の完成度と取組。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・ Excel2016の応用操作。表計算の編集。 ・ Powerpoint2016の基礎。 ・ 図を用いた文章の可視化。伝えるための技術演習。 ・ Adobe グラフィックソフトによる画像編集応用。 ・ 文字入力と文字組の応用。	(知)	・ 計算式、関数の応用。 ・ プレゼンテーションソフトの基礎操作。 ・ Illustratorによる応用的画像編集。		○		○	○	16
			(思)	・ 用途に応じて関数式を利用できる。 ・ プレゼンテーションの基礎とPowerPoint基礎操作。 ・ 用途に応じた文字入力編集と応用力。		○		○	○	
			(態)	・ ソフトの利用方法を理解して活用できる。 ・ 発表構成に応じて機能を利用できる。 ・ グラフィックデザインにおける文字組を理解し、作品に活かす事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・ Powerpoint2016の応用。 ・ 様々なアニメーションの方法と応用。 ・ 発表のための準備。効果的な発表方法。 ・ Adobe グラフィックソフトの応用。作品完成とデータ提出のための処理。	(知)	・ Powerpointのアニメーション機能を活用できる。 ・ 実際の発表でソフトウェアを活用できる。 ・ Adobeソフトを作品制作で活用できる。		○		○	○	22
			(思)	・ 発表内容を理解してソフトを応用できる。 ・ 動画機能を使い応用作品が出来る。 ・ 作品制作に効果的なグラフィックソフトの利用が出来る。		○		○	○	
			(態)	・ 作品をうまく利用して発表が出来る。 ・ 各機能を積極的に利用している。 ・ 取組が作品の完成度に比例している		○		○	○	
合計										78